



この春には私のベランダの薔薇たちが大輪の花を咲かせた後に、やせ細って、葉を次々に落として、どんどん弱っていきました。うどんこ病になったようです。知識もなく、消毒を試してみても効果がなく、とうとう、「切除手術」をすることにしました。裸になった薔薇の鉢を見て、申し訳なさで一杯です。今の苦境に耐えて、再生する日を信じて、待っているところです。

その中で「ド根性」と命名しているバラが先端に3輪ほど蕾をつけていました。そのうちの一輪が開いてくれました。20 数年以上も前に、教会堂の屋上ベランダの殺風景な様子を心配して、君恵さんが植木を数鉢持ってきて下さいました。その内の1鉢が薔薇でした。フロリバンダ種の丸弁平咲き一重で、ベルベットのような厚みを感じさせる深紅の薔薇です。どんな艱難にもめげず ♪主 我を愛す 主は強ければ 我弱くとも 恐れはあらし♪ と讚美歌を歌いながら、耐えてきたと言われた君恵さんを懐かしみ、「ド根性」と呼んできました。老化現象(?)や、原因不明(?)とも思える、皮膚疾患やら、めまいやらに罹り、元気を失っていた私も、この「ド根性」薔薇を見て、老いても、命がある限り、精一杯命を輝かせたい…と思わせられました。

さて、6月10日の礼拝を終えて、「9条改憲 NO! 政治の腐敗と人権侵害を許さない『安倍政権の退陣を要求する6・10国会前大行動』」に参加するため、夫と共に国会正門に向かいました。折から梅雨前線が活発化し、大雨の予想でした。私は雨靴を履き、1本の傘を持ちました。この傘は1月に逝去された友人の遺品です。友人は「ホームページの文章を楽しみに読んでいます」と会うたびに言ってくれました。病気のため外出もままならなかった友人は、さりげなく、私の言葉や行動に賛意を表してくれていたと信じ、友人と一緒にこの行動に参加する気持ちで傘を持参したのです。



国会正門前の交差点にステージが仮設され、その周辺は機動隊にロープで規制されながらも、大勢の人々がいて、身動きもできないほどです。私たちはすぐ横の憲政記念公園に入り、大きな樹の下に立ちました。数名の知人、友人に出会えてとても嬉しかったです。

20 数団体が共催し、憲法9条を守る、平和を願う一心で多くの人々が集まってきました。

主催者は若い方々ですが、参加者は、周りを見渡す限り、圧倒的に高齢者が多かったのです。雨が降り始め、足元も濡れ、腰を下ろす場所もなく、肌寒い感じではありましたが、スピーチされる方々の呼びかけに、歳なりの力で、応答しました。安倍首相夫妻の「日本会議」の意向に沿った、便宜供与と権力の乱用にはただ呆れるばかりです。権力を忖度し、国民を無視する国会議員、官僚の横暴には我慢ができません。原発再稼働路線も許しがたいものです。地域経済の活性のためと称し、つぎ込まれている膨大なお金は、私たちが支払っている電気代と私たちが納めている税金なのです。放射性廃棄物の安全な処理のめどもなく、フクシマ避難民の平穏な、安全な暮らしもありません。

沖縄の辺野古の新基地建設反対のために闘っておられる山城博治さんも参加され、「沖縄を覚えてほしい」と声を振り絞って訴えられました。沖縄が返還されても、平和を味わうどころか、米軍基地のために踏みにじられ、踏み台にされ続け、差別されている沖縄の痛みを覚え、体の中から怒りが湧いてきました。為政者は、弱く、苦しむ者の声をこそ、聞いてほしいと切に望みます。「**実際には何者でもないのに、自分をひとかどの者だと思ふ人がいるならその人は自分自身を欺いています**」(ガラテヤ 6:3)との礼拝で読まれた聖書の言葉を思い出し、全ての国民が平等に生きられる社会を切に望みます。